

平成28年【2016年】9月23日（金）

布教七十年記念祭 並びに秋季霊祭 併せて道願美祢子姫七十年祭 併せて野村颯璋大人五年祭



金光教土佐高岡教会

○布教七十年を迎え奉りて

本年、土佐高岡教会は七十年の記念の年を迎え、初代の野村トヨ師が昭和二十一年の九月二十三日に高知親教会より、四十六歳の女の独り身で、天地金乃神様、生神金光大神様、高知教会初代教会長の道願縫姫之霊神、二代教会長道願政治郎師のお嬢様であり、遺言にて布教に出られる時には連れて行つてと申された道願美祢子姫の御霊神様の御神徳を信じお供をされて、金光様、親先生の御取次お祈りを蒙りて、教会も信者さんもあられない初めての土地に向かわれた。

そこには「私の様な何も分からぬ者をお使い下さいます事は、ご迷惑な事でございましょうが、万事をお許し下さいまして、今日より高岡町近郷近在の氏子一同が助かり救われます様、私をお引き回し御用にお使い下さいませ。」との祈り、「高知親教会先代道願縫師が、この土佐の地で難儀な氏子の一人でも多く助けたいとの事で、女の一心岩をも貫くという御教えを頂かれて、あらゆる難儀を乗り越えて、お進み遊ばされたその御心の万分の一でも頂きたく思つて

居ります。」との一心の願いで只ひたすら、一心に氏子の助かりを祈られる、命をかけられての祈り願いしか無かったのです。

その祈りの中に、教会建物のおかげを蒙り、信者さんのおかげを蒙り、万事のおかげの中に、布教をさせて頂くという事が出来られた。

布教という中には当然、信心の継承というものがあるが、初代は独り身であられたので、布教に出られて子供のおられなかった初代の元に、妹の娘、姪の登茂子師が神様に引き寄せられ、金光教の教師にもなり初代と共に御用をされるようになり、年頃になられると、

須崎教会で信者から修行されて金光教の教師になられた、二代の顥璋師がその登茂子師と夫婦となり、初代と養子縁組されて教会に来られ、奇しき神縁の中に信心の継承がなされ、時は流れて教会に子供が生まれ、初代が亡くなり、教会が二代に受け継がれ、子供が成長し金光教の教師に次々となり、二代は病気に難儀し、それによって子供達は信心の稽古をさせて頂き、三代教会長に教会が受け継がれると、二代は亡くなり、代を重ねて人は亡くなられても信心は受け継がれて、今日まで続く七十年の歩みとなつての今なのであります。

今日、三代教会長とならせて頂いた

私としては、奇跡のようなおかげの積み重ねで、神様、御霊神様にさせて頂いている御用だと思っております。

初代の野村トヨ親先生が布教始めに祈られた心は、御霊神様となられた今も教会の御用の中身となって続いている。

それはさらに広がりを持って、天地金乃神様、生神金光大神様、御霊神様、金光様、親先生、諸先生方、この教会につながり、ご信心を求められた信奉者の方々、多くの方々のお祈りと御守り、お導きとお恵みとなり、ご都合お繰り合わせの中に、奇跡のような今の御用を迎えさせて頂いたと思っております。

それゆえに教会の七十年という月日を思わせて頂く時に神様のさせられる稽古修行には無駄事がないと思っております。

初代の死をくぐり抜けるような波瀾万丈の生涯も、二代の逃げようのない病気を通じての事も、今は三代の中で初めてかえった様な、御用そのものが行き詰まるような日々の生活を通じての修行も、どれ一つとっても信心力、人間力を鍛えて神徳を積ませてやろうとの、思し召しであり、教会の御用という内容から申せば必要不可欠の稽古で、初代から通じてさせて頂いている、ただひたすらに「天地金乃神様、生神

金光大神様、御霊神様、命のおかげを蒙り有り難うございます。今日も一人が助かる御用に使うて頂けます様をお願い申し上げます。」と今日一日、今日一日と信心辛抱で祈りを積み重ねつつ、金光様に、親先生にと御取次を願い、御取次を頂くしか、道は開けないのであり、信心は本心の玉を磨くということ、と教えられています、言い換えれば神様のおかげの中で、信心の稽古をもって生き抜く力の人間力を鍛えるということでありましょうか。

それは起こってくる事柄は自分の人間力

を鍛えるための神様のお差し向けであり、逃げずに取り組みれば本心の玉を砥石で磨くことになり、大切な経験、生きる力にもなり、神様のおかげを現して下される。

今月今日、人が助かる御用のお役に立たせて頂きますよう、記念の年のご時節を賜り、信心を進めて共々におかげを蒙りますよう、お願い申し上げます。

平成二十八年九月二十三日（金）

金光教土佐高岡教会長

野村清治

・御神前

○布教七十年記念祭祭典次第

員

着

先、祭
次、拝
次、神
次、取
次、祭
次、祭
次、天
次、副
次、参
次、神

前
次
主
主
地
祭
者
徳

拝
唱
祭
玉
書
主
各
代
賛

詞
詞
詞
串
附
玉
表
詞

奉
奉
奏
奉
奉
串
奉
奉

席
礼
唱
唱
上
奠
体
奠
奠
唱

次、拝

次、祭

員

靈

前

転

座礼

・御靈前

先、祭

員

着

席

次、靈

前

拝

詞

奉

唱

次、祭

主

祭

詞

奏

上

次、祭

主

玉

串

奉

奠

次、副

祭

主

玉

串

奉

奠

次、参

拝者

一

同

玉

串

奉

奠

次、祖

先

賛

詞

奉

唱

次、「

真心の道を迷わず失わず」

齊

唱

次、祭

員

退

下

○金光教の歌「真心の道を迷わず失わず」

一、

真^{しん}

末^{すえ}

二、

真^{しん}

末^{すえ}

教^{おし}教^{おし}の迷^{まよ}心^{じん} 教^{おし}教^{おし}の迷^{まよ}心^{じん}

ええ末^{すえ}わの ええ末^{すえ}わの

伝^{つた}伝^{つた}ま ず道^{みち} 伝^{つた}伝^{つた}ま ず道^{みち}

ええで失^{うしな}を ええで失^{うしな}を

よよ わ よよ わ

ず ず

○ 祭典後教話

金光教高知教会長

講師

道願 正美 親先生

講題

「霊神と七十年」

読師

金光教土佐高岡副教会長
野村 真二 先生

- ・「立教神伝」捧読
- ・前講／講師紹介

○土佐高岡教会の沿革

(昭和21年9月23日) 旧高知県高岡郡高岡町吹越ふくしえの岡崎茂太郎おかざきもたろう様方に仮布教所設置

(昭和21年9月23日) 布教記念日

(昭和21年9月29日) 開教式

(昭和22年11月3日) 旧高知県高岡郡高岡町乙一三一【青木町あおきちやう】教会移転

(昭和22年12月10日) 野村トヨ師くんとう訓導に任ぜられる

(昭和23年3月1日) 金光教土佐高岡教会設立認可

(昭和23年3月1日) 野村トヨ師は教会長に任ぜられる

(昭和23年8月11日) 少年少女会結成登録

(昭和24年12月10日) 野村トヨ師くんとう権けん少講義しょうこうぎに任ぜられる

(昭和25年6月10日) 高知教会在籍の旧姓野村美代子みよこ師は金光教教師に任ぜられる

(昭和25年) 旧姓野村美代子師は養子縁組を解消し旧姓雷いかづち美代子師となる

(昭和26年3月26日) 家屋一棟宅地二十一坪一号九勺が教会所有となる

(昭和27年12月10日) 野村ト三師しやうしゆう小講義に任ぜられる

(昭和28年) 信徒会、婦人会、青年会結成

(昭和28年8月5日) 二階建て一棟増築

(昭和28年) 旧姓雷美代子師は宇佐布教所を開所

(昭和30年8月16日) 旧姓いかづちともこ雷登茂子氏が土佐高岡教会にお引き寄せ頂く

(昭和30年9月28日) 旧姓雷登茂子氏が野村ト三師の養女となり野村登茂子氏となる

(昭和31年9月23日) 布教十年記念大祭

(昭和34年6月10日) 野村登茂子師は金光教教師に任ぜられる

(昭和34年) 野村登茂子師は副教会長に任ぜられる

(昭和34年) 旧姓雷美代子師は教職を辞し岡本家に嫁ぎおかもと岡本美代子氏となる

(昭和34年) 市制施行のため登記の変更により教会住所が

高知県土佐市高岡町字西連寺せいれんじ乙二二九番地四に変わる

(昭和36年9月23日) 布教十五年記念大祭

(昭和39年4月26日) すさき須崎教会在籍旧姓かわだ ひであき川田穎璋氏を迎え登茂子師と結婚式をされる

(昭和39年6月10日) 土佐高岡教会在籍の川田^{かわだ}穎璋^{ひであき}師は金光教教師に任ぜられる

(昭和39年7月3日) 川田^{かわだ}穎璋^{ひであき}師は野村トヨ師の養子となり野村穎璋師となる

(昭和39年7月3日) 野村登茂子師と野村穎璋師は正式に婚姻をされた

(昭和39年9月1日) 野村登茂子師は副教会長を辞任せられる

(昭和39年9月1日) 野村穎璋師は副教会長に任ぜられる

(昭和40年2月28日) 穎璋師、登茂子師夫婦に長女^{しんこ}真子が生まれる

(昭和40年3月30日) 長女真子は発育不全にて御帰幽

(昭和40年8月25日) 穎璋師、登茂子師夫婦の長男^{しんいち}真一は流産にて御帰幽

(昭和41年8月6日) 穎璋師、登茂子師夫婦に二男^{しんじ}真二が生まれる

(昭和41年9月23日) 布教二十年記念大祭

(昭和46年8月17日) 穎璋師、登茂子師夫婦に三男^{きよはる}清治が生まれる

(昭和46年9月23日) 布教二十五周年記念大祭

(昭和46年12月) 教会取り壊し

(昭和47年3月5日) 教会新築落成

(昭和47年10月6日) 野村ト三師御帰幽

(昭和47年11月1日) 野村穎璋師は二代教会長に任ぜられる

(昭和47年) 野村登茂子師は副教会長に任ぜられる

(昭和51年9月23日) 布教三十年記念大祭

(昭和61年9月23日) 布教四十年記念大祭

(昭和61年5月19日) 野村真二氏は新宿しんじゅく教会在籍教師旧姓きし岸井道子師と結婚する

(昭和61年10月30日) 真二師、道子師に長女真希まきが生まれる

(昭和62年6月10日) 野村真二師は金光教教師に任ぜられる

(昭和62年) 野村登茂子師は副教会長を辞任せられる

(昭和62年) 野村真二師は副教会長に任ぜられる

(昭和62年11月17日) 真二師、道子師に長男道徳みちのりが生まれる

(平成3年6月4日) 真二師、道子師に二男真道まさみちが生まれる

(平成4年6月10日) 野村清治師は金光教教師に任ぜられる

(平成8年9月23日) 布教五十年記念大祭

(平成10年8月7日) 宇佐布教所を閉所

(平成11年6月10日) 野村登茂子師は教主金光様より教師四十年の褒賞をせられる

(平成16年6月13日) 野村穎璋師は教主金光様より教師四十年の褒賞をせられる

(平成18年9月23日) 布教六十年記念大祭

(平成20年10月30日) 真一師、道子師の長女真希が上原家に嫁がれる

(平成21年1月14日) 野村穎璋師は二代教会長を辞任せられる

(平成21年1月14日) 野村清治師は三代教会長に任ぜられる

(平成23年4月5日) 野村穎璋師御帰幽

(平成28年9月23日) 布教七十年記念大祭

平成 2 8 年 9 月 2 3 日 発行

宗 教 法 人

金 光 教 士 佐 高 岡 教 会

教 会 長 野 村 清 治

〒781-1102

高知県土佐市高岡町乙129番地4

TEL/FAX (088) 852-1402

メールアドレス konkokyo@happy.interq.or.jp

ホームページ <http://konkokyo.jpn.ch/>

